

若狭地区の県立高校再編整備の方向性について

高校再編の基本的な考え方

若狭地区の高校入学者の減少を見通し、高校教育を充実していく観点から、現在の3校体制を2校体制に移行し、職業教育、進学対応を強化する。
 普通科系学科については、文理探究科をはじめ、進路別・選択教科別クラス編成や専任教諭の配置など、幅広い進学ニーズに対応できるよう、若狭高校に集約する。
 また、普通科の定員比率を引き上げる。
 職業系学科については、伝統ある水産教育を継続するとともに、地域の特性や時代のニーズを踏まえ、カリキュラムの見直しや実践教育の推進、資格取得の促進を図る。また、若狭東高校を総合産業高校と位置付け、生徒が専攻学科以外の授業を選択できる総合選択制を導入することで、多様な興味関心を引き出すとともに進学にも対応する。

現状(H23)

普職比率 = 50 : 50

[定員579人 (普通科系291人 職業系288人)]

()は学級数、人数は定員

若狭高校 (8) 303人	普通科(5)	195人
	理数科(1)	36人
	商業科(1)	36人
	情報処理科(1)	36人

小浜水産高校 (3) 90人	海洋科学科(1)	30人
	食品工業科(1)	30人
	水産経済科(1)	30人
専攻科		10人

若狭東高校 (6) 186人	普通科(2)	60人
	産業技術科(1)	33人
	生活科学科(1)	33人
	電子機械科(1)	30人
	電気科(1)	30人

再編後(H25)

普職比率 = 54 : 46 [定員500人 (普通科系270人 職業系230人)]

方向性 - 1 小浜水産高校を若狭東高校に統合

若狭高校 (8) 270人	普通科(6) 情報コース等を検討	220人
	文理探究科(2)	50人

若狭東高校 (総合産業高) (8) 230人	ビジネス情報科(2)	60人
	海洋科学科(2)	50人
	農業・生活科学科(2)	60人
	電気・機械科(2)	60人

()は学級数、人数は定員
科名はいずれも仮称

特徴

- ・若狭高校の普通科系単独校化により、学校全体で進学体制を組むことが可能となり、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の集中的な活用も含めて、生徒の進学に対する意識、学力レベルの向上が見込まれる。
- ・職業系学科の統合により、採用情報の収集や求人開拓を幅広く行うことが可能となり、生徒への就職支援が強化できる。
- ・農・水・商が連携して若狭ブランドの「食」の開発や販売を行うなど、より幅広い職業体験プロジェクトが実施できる。

課題

- ・水産実習棟の利用や部活動に当たっての海洋科学科の生徒の移動負担軽減 (若狭東高校舎から約6km)

方向性 - 2 小浜水産高校を若狭高校に統合

若狭高校 (10) 320人	普通科(6) 情報コース等を検討	220人
	文理探究科(2)	50人
	海洋科学科(2)	50人

若狭東高校 (総合産業高) (6) 180人	ビジネス情報科(2)	60人
	農業・生活科学科(2)	60人
	電気・機械科(2)	60人

()は学級数、人数は定員
科名はいずれも仮称

特徴

- ・若狭高校の海洋科学科で、SSHも活用して県立大学の協力を得ながら、高大連携授業や実践学習などを実施。さらに、普通科教育を強化することで、進学にも対応した新たな水産教育が展開できる。
- 実習についても、遠洋漁業実習からバイオテクノロジーを応用した養殖など、実験や研究を中心とした実習に転換

課題

- ・若狭高校では、進学にも対応した水産教育を行っていくこととなるが、就職を希望する海洋科学科の生徒に対しても十分配慮が必要